



巻頭詩  
未確認飛行物体……………入沢康夫

I部

1 文学の言葉を感じ取る  
二十億光年の孤独……………谷川俊太郎  
虹の雌雄……………蜂飼耳  
【コラム】「にじ」をめぐる言語文化誌

2 解釈の多様性を楽しむ  
予感……………青山七恵  
雉始雌……………絲山秋子  
【参考】近現代の短歌／俳句……………石川丕／子正岡子規ほか  
【コラム】浦島太郎、空に舞う

表現プラザ1  
みんなでつなぐリレー小説  
和太郎さんと牛……………新美南吉  
【参考】表現の扉をひらく1 自分のなかに「語り手」をつくる

3 心情の表現を捉える  
山月記……………中島敦  
掬の門……………カフカ／池内紀訳  
【コラム】虫に小鳥に蚕に虎に……………変身の話

4 作品のねらいを読み解く  
少年という名前のメカ……………松田青子  
青が消える……………村上春樹  
【コラム】作品の言葉を受け止める

表現プラザ2  
想像からの語り  
夕焼け……………吉野弘  
売炭翁……………白居易  
【参考】表現の扉をひらく2 タイトルは、書く「わたし」を上げます

5 文学の想像力を捉える  
山椒魚……………井伏鱒二  
靴……………安部公房

6 近代の文章の価値を考える  
永訣の朝……………宮沢賢治  
【参考】アンソロジーを企画する  
たけくらべ……………樋口一葉／川上未映子訳  
【参考】近代の文体をたどる……………森鷗外／二葉亭四迷ほか  
【コラム】伏して見る花 細道の井戸

表現プラザ3  
現代に甦る歌物語  
古典和歌・近世俳句……………狭野弟上娘／松尾芭蕉ほか  
【参考】表現の扉をひらく3 大きな段落のほくし方

読書案内

一回目からの読書……………蜂飼耳  
「これはなんだ!」……………青山七恵  
好きなように読んだ……………松田青子  
自分探しより本探し……………大木康  
新しい言葉に出会う楽しみ……………中村桂子

II部

7 歴史の語り方について考える  
鴻門の会―『史記』より……………司馬遷／大木康訳  
花山天皇の退位―『大鏡』を読む……………永井路子  
【参考】『栄花物語』―花山院の出家……………編集委員会訳  
【コラム】憧れの物語独り占め

表現プラザ4  
誘惑する書評  
ちりめんの赤色に映る恋の哀切 小川洋子  
【参考】表現の扉をひらく4 引用はなんのため?

8 表現の意味を捉え直す  
こころ……………夏目漱石  
物語もつと深読み教室……………宮川健郎  
靴の話……………大岡昇平  
【コラム】明治時代のスイーツ文豪男子

表現プラザ5  
表現の宝さがし  
ことばの不思議……………穂村弘  
【参考】表現の扉をひらく5 ことは選びは織細に

9 言語文化の可能性を追求する  
竹取物語―かぐや姫の昇天 森見登美彦訳  
【参考】マンガ古典文学 竹取物語……………池田理代子  
雨月物語―菊花の約……………上田秋成／石川淳訳  
舟を編む……………三浦しをん  
【コラム】ドラママの中の方言はどこにある

表現プラザ6  
言葉でスケッチ  
鳶……………ミュシャ／夜のカフェテラス……………ゴッホ  
【参考】表現の扉をひらく6 自分のなかに「読み手」と「聞き手」をつくる

10 文学の普遍性を探究する  
源氏物語―北山の垣間見 紫式部／角田光代訳  
「虫めづる姫君」の観察眼……………中村桂子  
【参考】堤中納言物語―「虫好きのお姫様」……………中島京子訳  
卵を抱きながら。もしくは、くせになる翻訳……………松永美穂  
ここではないどこかへの扉……………穂村弘  
小論文を書く(調査研究型／意見主張型／企画提案型)

資料編

1 物語・小説読み解きツール  
1 語り手 2 構成・展開 3 場面設定 4 転換点  
5 伏線 6 キーアイテム 7 人物造形 8 役割語  
9 人物相関図 10 感情表現 11 象徴・暗示 12 背景  
2 探究のためのブックガイド

▶『大鏡』の「花山天皇の退位」について解説し、『栄花物語』との語られ方の違いに着目して評論した文章です。

▶詩人・作家の「虹」に関するエッセイです。社会科学側面や人文科学的側面からも「虹」を検討している点に注目です。

▶「わたし」とサネスケの夫婦の、のんびりとした暮らしを描いた小説です。読者の思い込みを結末で鮮やかに裏切る、文章表現ならではの仕掛けの巧みに注目です。

▶「表現プラザ1～6」では、創作・批評・推敲・共同制作など、多様な活動を段階的に行います。

▶現代の作家によって翻訳された古典作品と原文を掲載しています。

▶生命誌研究者による古典の評論。平安時代の物語に描かれた風変わりな姫君の、自然を「めづる」姿勢が、現代の生命誌の研究者の姿勢に通じると論じます。

▶ドイツ文学者・翻訳家である筆者が、実体験を用いて、作家と翻訳家の間にあるおもしろさを臨場感と高揚感をもって伝えるエッセイです。